



ぶら〜っとぎゃらりー下原 自慢の作品がずらり

2月13・14日、下原区(西 勲区長)で、趣味の作品展「第3回ぶら〜っとぎゃらりー下原」が開催され、多くの人でにぎわいました。

この行事は、区民有志で開催していたものを平成19年度から区の行事として引き継ぎ開催しているもので、今年を通算9回目になります。区民が趣味で作成した木工や人形、パッチワーク、書道、絵、写真、陶芸などの作品をくつろぎながら鑑賞し、素晴らしい出来栄に感心していました。



▲作品を鑑賞する来場者

東部町民センター講座発表会 寸劇で家族の大切さ訴える

2月14日、東部町民センターで講座発表会が行われ、講座生が1年間の講座の成果を発表しました。

また、受講生やセンター職員たちでつくる「ふれあい劇団」がオリジナルの寸劇「カボチャの花」を披露。劇は熊本弁でやりとりされ、家族のきずなを再確認するストーリーでした。

同劇団の寸劇は、3月6日に菊陽町図書館ホールで行われる「菊陽町人権教育研究大会」でも上演されます。



▲1年間の講座の成果を発表しました

県農業コンクール 新人王部門優賞受賞

2月4日、熊本テルサで県農業コンクール授賞式が行われ、本町の本田亮希さん、幸代さん夫妻(鉄砲小路)が新人王部門で優賞を受賞しました。

本田さんは平成17年に就農し、現在マンゴーなどの熱帯作物を中心に栽培中。国内外へ向けた広い視野とアイデア、取り組みなどが評価されての受賞となりました。現在は県産農産物を香港へ輸出しようと検討中です。若手農業者のリーダーとして今後の活躍が期待されます。



▲受賞された本田亮希さん(右)、幸代さん(左)夫妻

武蔵ヶ丘児童館 ジャンボカルタ大会&ぜんざい会

1月23日、武蔵ヶ丘児童館で小学生を対象にジャンボカルタ大会&ぜんざい会を行いました。

参加した小学生は、フダを読み上げられると10m先に置かれたカルタまで猛ダッシュ。「犬も歩けば棒に当たる」などのことわざが書かれたA4サイズの大きなカルタを見つけると、笑顔でチームのもとに持って帰りました。

また、カルタ大会後にはぜんざいも振る舞われ、参加者はとても楽しそうな様子を見せていました。



▲私が先にとったよ!

菊陽産の食材で「菊陽御膳」 生産者と一緒にいただきます!

毎年1月24日~30日は、全国学校給食週間です。菊陽町の小中学校では、25日~29日に地元産食材を使った「菊陽御膳」などの特別メニューが出されました。給食週間にちなんだ初の試みです。

「菊陽御膳」は、菊陽町でとれた野菜や大豆などを使って作られた、ヘルシーかつ体によい献立。

1月25日には生産者や後藤町長、赤峰教育長が菊陽中学校など各小中学校を訪れ、生徒と一緒に給食を食べました。



▲菊陽中学校での給食の風景

“あそびじゅつ”を堪能 「ひげのおっさんがやってきた!あそびじゅつ in きくよう」開催



▲増田喜昭さんのおはなし

1月31日、図書館ホールで、児童対象ワークショップ「ひげのおっさんがやってきた!あそびじゅつ in きくよう」が開催されました。

講師は、三重県四日市市の子どもの本専門店「メリーゴーランド」店主:増田喜昭さん(通称:ひげのおっさん)。

増田さんは『霧のむこうのふしぎな町』や『はてしない物語』など数冊を紹介し、「読書は書いた人

菊陽中2年生が郷土料理 「あんもちだご汁」づくりに挑戦!

2月9・12日、菊陽中学校で菊陽町生活研究グループ員が講師を務める郷土料理講習会が開催されました。

菊陽産の野菜を使って作ったあんもちだご汁は、初めて食べる生徒たちからも「家でも作ってみたい」との声が上がるほど好評でした。

また、試食のときには、伝承料理などについて積極的に質問をしたり、話を聞いたりする姿が見られました。



▲だご汁を作る生徒たち

と読む人が一緒に何かをつくること」「本は子どもの守護神」「子どもが読む本は子どもに選ばせてほしい」などと話されました。その後、子どもたちはグループごとに分かれ、紙を使って建築物の制作に挑戦。数十枚もの紙を折り曲げたり、積み上げたりして独創性あふれる建物を制作し、完成後は息を吹きかけて一気に倒しました。

“あそびじゅつ”の世界を堪能した子どもたちは笑顔いっぱい。増田さんは、最後に「子どものうちに『あぁ 楽しかった!面白かった!』をたくさん貯金しておこう。すると、大人になっていつでも引き出せるから」と話し、ワークショップを締めくくりました。



▲倒すことも“楽しい”